

国境なき医師団 (MSF) 日本 講演会 途上国の現場における国際人道・医療援助

日時：6月11日 (土) 14:00～16:00

会場：北海道社会事業協会 余市病院 会議室

(北海道社会事業協会全病院へビデオで同時配信予定)

参加費：無料

内容：MSFの外科医・看護師によるフィールド体験

／活動への参加方法などの情報

スピーカー紹介

安藤 恒平 (外科医)

九州大学医学部卒。学生時代はバイクで日本全国を回り、アジア諸国にもバックパッカー旅行に出る一方、京都大学医学部総合診療科に国内留学してEBMの実践を学ぶ。卒業後、九州大学医学部心臓血管外科に属し、循環器を含めた外科のトレーニングを受ける。その後、国立がんセンター中央病院(現国立がん研究センター中央病院)外科レジデント、佐久総合病院上部消化管外科などで修練。2011年よりMSFの活動に参加し、ナイジェリア、イエメン、パキスタン、シリア、南スーダンで活動。現在、余市協会病院整形外科勤務。



大滝 潤子 (手術室看護師)

千葉県出身。看護師・社会福祉士。三育学院大学、淑徳大学卒業。東京衛生病院、武蔵野赤十字病院、四街道徳洲会で看護師としての勤務を経て2012年より国境なき医師団(MSF)に参加。以来、イラク、ヨルダン、南スーダンへ手術室看護師として派遣を経験。西アフリカのシエラレオネではエボラ出血熱対策のプログラムで活動した。2015年には医療チームリーダーとしてナイジェリア、タンザニアで活動し、スタッフのマネジメントにも携わった。



お問い合わせ：

国境なき医師団日本フィールド人事部 recruit@tokyo.msf.org

北海道社会事業協会 地域医療国際支援センター info@cicmt.com